

第9回ボランティア研修交流会

好評だった下畑先生の講義

力を入れずに介護

「さわやか」では、7月3日(土)午前10時から第9回ボランティア研修交流会を小倉北中央公民館で行いました。

今回は、「体験学習会」と銘うって、「安全な介助の仕事」について、理学療法士の下畑博正先生をお招きしました。参加者は、ボランティアさん、その家族、「さわやか」メンバーあわせて42名でした。

「さわやか」では、7月3日(土)午前10時から第9回ボランティア研修交流会を小倉北中央公民館で行いました。今回は、「体験学習会」と銘うって、「安全な介助の仕事」について、理学療法士の下畑博正先生をお招きしました。参加者は、ボランティアさん、その家族、「さわやか」メンバーあわせて42名でした。

くまで動かしていました。介護歴15年の小浜さん(ボランティア)も、経験からの実践を説明していただき、さらに深く学ぶことが出来ました。体験学習は初めての試みでしたが、皆さんの協力で盛会裏に終わることができました。

参考になった体験学習

私にもできる

「さわやか」ボランティア

佐藤 久美子

坂倉副会長の司会で、早速講義に入りました。車椅子と台とベット1台を会場に持ち込み、具体的に実技指導がありました。

さすが介護の専門家だけあって、力を使わずに、じょうずに、患者を起したり、立たせたりする方法を指導されました。実際にボランティアの方々もベットが上がって体験され、そんなに力まずに体位の変換ができることにびっくりしていました。また、車椅子では、半身麻痺になった時の使い方や坂道のの上り方などを実践しながら

今回、私が受講したことに感じて感じたことを書きます。現在、私たちの回りでは、どんどん高齢化が進み社会でも大きな現象になっています。しかし、私や私の周囲の人は達ば老人が寝たきりになったり、体が不自由になったりした場合の介助の方法など知りません。また、現代は情報化社会といわれテレビなどで色々な情報社会といわれながらも今回体験したことなどはほとんど放送しません。

がもとの他界しましたが、入院加療中に付き添った際、寝返りをさせたり排便させたりしましたが、体が小さく体力もない私は父の充分な世話ができず、父も世話をする度に息を荒くする私に気兼ねしてあまり世話を言いつけなかったのでは、ということが心の中に引っかかっています。そして、80歳になる母が、もし寝たきりになったり体が不自由になったりしたらどうしようという心配がありました。しかし、この度の受講で習

たことを受講者同士で実践したことを受講者同士で実践にやってみると、父に付き添っていた時、あれほど苦労した体位の変え方などと容易にできることに私自身驚くと同時に多少の自信が持てるようになり、当日、帰宅して体重が百キロもある主人に老人役をやってもらい、習ったことを復習したところ、意外にも簡単に体位を変えさせることができました。

今回受講して習ったことがすべてとは思いませんが、体力のない私でもできるんだという自信が持てるようになり私の友人たちにも習ったことを教えようかと思っています。この次はいつ開講されるか判りませんが、開講されればぜひ受講したいと思います。

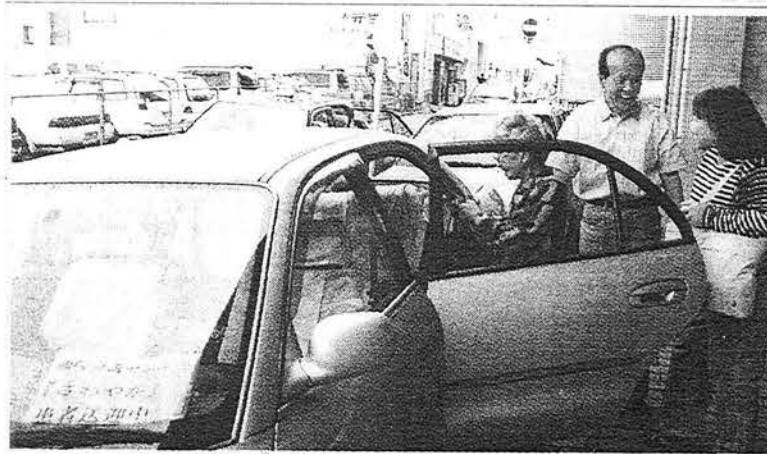
人工透析送迎 支援が広がる

慢性の腎不全症で、人工透析を続ける高齢患者の通院を手助けしようと、送迎は片道二千三百円をボランティアに取り組み、タクシーで通院している患者が増えている。患者もいたという、世話

北九州

主婦、会社員ら104人参加

患者団体の北九州市腎友会(約千三百人)は一九九六年九月、八幡東区に通院介護センター「さわやか」を開設。九八年一月には小倉北区にも事業所を設け、登録患者六十七人の送迎をしている。人工透析は週三日、一回につき最低でも四時間かかるため、送迎と迎えに別々のボランティアが必要になるケースが多い。「さわやか」には現在、運転ができる透析患者十六人を含め、主婦や会社員ら百四人のボランティアが登録しており、今年三月だけで腎友会も今年十月、長崎県も送迎は二百七十八回に達した。利用する患者は年会費五



人工透析患者の通院を介助する「さわやか」の男性ボランティア会員(北九州市内の病院で)